ありが隊新聞

令和6年3月
第131号
編集：篠田大樹

篠田大樹

前川未来

松川友哉

大石航平

加藤まゆみ

小幡厚子

望月ひとみ

二月からの活動

文・篠田　大樹

二月には狩猟免許を取得しました。茶畑に出て荒らす動物が増えてきたり、家の周りにも出て畑を荒らしたり家に侵入してくるものもいるので獣害を防ぐためです。二十五日には長野市で天龍村・中井侍銘茶のコラボイベントを行いましたがその数日前に信濃毎日新聞に取り上げていただいたこともあり大変盛況となりました。その場でオーナー制度の申し込みも多数いただき、三月中旬現在、十八名の方々にご登録いただいています。一年で七、八人程度申し込みいただければ上々くらいに思っていましたがここまで増えたのはありがたい限りです。これから最初に登録していただいた方々が更新してくださるかどうかで内容や対応の評価も出てくると思います。

三月に入り、お茶の作業も一気に忙しくなりましたがなんとか肥料撒きと春製枝を終わらせることが出来ました。九日には新たに苗を植える斜面を段々にする作業も行いました。茶畑では徐々に草も出てき始めたのでこれから草取りや表面のごみ取りなど行なっていきます。十久保南蛮の生産者組合も立ち上がり初期メンバーに登録していただきました。家の横で開拓した畑で栽培する予定です。

↑ 段を作る作業後、お手伝いいただいた皆様（ありがとうございました！）

↑ イベント＠長野市の様子

協力隊退任と今後について

二〇一九年十一月に着任し四年五ヶ月目となる今月（三月）限りで任期満了にて協力隊を退任します。本来三年任期のところ任期中にコロナの影響がある隊員は延長できるという措置が生まれ、オーナー制度という新しい任務も与えられ長きに渡り務めさせていただきました。お世話になった皆様、陰ながら応援してくださった皆様に感謝申し上げます。数えてみると歴代協力隊の半数に当たる十二名の隊員と重なって活動していたようです。

天龍村の農業資源を活かした6次産業化のビジネスモデルになるということを公約に掲げ、限られた任期の中で生業づくりをして退任後も生計が立てられるようにするにはどうしたらいいかを常に考えて活動してきました。村民の皆様に寄り添い、皆様に楽しんでいただくようなことをしてきたわけではないので多くの皆様が望んだ活動の形ではなかったかもしれませんが、実際に生計が立てられるだけの事業を展開することが出来るようになったことは誇りです。今後は一個人事業主として活動を続けていきますので何卒よろしくお願いいたします。

まつかわの活動

［二月中旬～三月中旬］

松川友哉

ありが隊になり三年間が過ぎようとしています。今後ですが、六月までありが隊を続け、七月からキャンプ場を指定管理で運営できるよう調整しています。決まり次第ご報告させていただきます。引き続きよろしくお願いします。

●和知野川キャンプ場

・二月の状況：二月中旬以降は、少しづつ気温も上がってきたためお客様も増えてきました。売上は昨年とほぼ同様でした。ゴールデンウィークの予約も始まりました。お陰様でこどもの日の連休は、予約満場となりました。その前に春休みで賑やかなキャンプ場になりそうで今から楽しみです。やはり多くの方に来場いただけるのはとても嬉しいことです。

・今年度の状況：お陰様で三年目も終わりが近づいています。昨年度を上回る売上となりました。キャンプブームが終わったという報道が最近増えています。ブームと共に、キャンプ場の売上も下降線とならないよう引き続き精進していきたいと思います。

●梅花駅伝

今年も満月屋チームで二区を走らせていただきました。梅花駅伝の直前に練習するだけのにわかランナーですが、昨年の自己タイムを更新することができました。応援ありがとうございました！声援が本当に力になります！

■和知野川キャンプ場　営業中

売店：毎週土曜日十時～十七時

ワチカフェ：三月三十日㈯十三時～十七時

モーニング：毎週日曜日七時半～十時

※四月の平日は、河川工事休業となります。

●松川携帯：090-4549-3223

WACHINO.CAMP
インスタグラム
週3回以上は更新しています。

応援ありがとうございました

今年もお醤油仕込

平岡の昭和の街並みにときめき

日々こうしん

文：前川　未来

時が過ぎるのは早いもので、三月ももう終わり。協力隊としての三年目もそろそろ終わろうとしています。

この度私は、協力隊任期満了の今月いっぱいをもって協力隊を退任し、お世話になったこの村を少し離れて、新たにチャレンジをする決断をいたしました。

わたしはもともと人見知りで人と関わることが苦手で、村に来るまでは機械相手の製造業をしていましたが、「どうしても買い物ご用聞きの仕事をやってみたい」と思い、天龍村の協力隊に応募をしました。それまでの自分自身が、苦手意識を持ってずっと避けてしまってきていた分野を仕事とすることに、正直不安な気持ちを抱いていましたが、村の皆さんがとても温かく見守ってくださったおかげで、たくさんの方とお話や繋がりを持つことができました。そしてそのことがきっかけとなり、やまびこデリだけでなく他にも整体の勉強を始めたり、他の隊員や集落支援員の方と一緒に新しく試みた活動があったりと、過去の自分では考えつかないような経験をさせていただきました。

三年目という節目を迎えるにあたり、これまでの経験や学んだことを振り返り考えたときに、これから先自分が進んでいきたい、もっと学びたいと思うものが見え、今回の進路を決めさせていただきました。とはいえ、協力隊として来て初めて知った天龍村、そして南信地域がとても好きです。ですから今後もこの南信の地域に貢献していきたいと思っています。

新たに挑戦をする気持ちを持てるようになったのも、この村の皆さんに育てていただき、この村で過ごした日々があったからです。ここに来ていなかったら絶対に得ることができなかったものがたくさんあります。この三年間は自分の人生において、とても大切であり重要な時間であったと感じています。結局まだまだ未熟なままの私ですが、ここでの経験を大きな糧として、これから先、活躍できるように、そして成長していけるように、精一杯努力していきます。

三年間、本当にお世話になりました。きっとまた天龍村で出会うことがあると思うので、そのときはどうぞよろしくお願いします。

ありがとうございました。

三月の活動内容

三月に入り、ようやく春の訪れを感じる季節となりました。

自身の活動といたしましては、三月九日に天龍村の歴史書籍の制作が完了しました。

去年の一月から原稿を書き進めて、一年と三ヶ月かけて無事に書籍として完成しました。

興味がある方は、無料で配布しておりますので、連絡（０９０-８１７３-３０４１）して頂ければと思います。なお村内各所に置かせて頂く予定となっておりますので、是非ご一読よろしくお願いします。

三年間ありがとうございました

令和三年四月に天龍村の協力隊に就任し、三年間の任期を終え、令和六年三月三十一日をもちまして協力隊を退任することになりました。

三年間、村の方々をはじめ、役場の方々など様々な方々に陰に陽に大変お世話になりました。

船舶の専門学校を卒業した後観光船の船員として三年間会社に勤め、天龍村の協力隊に就任したので、二十三歳のとき天龍村に住み始めたことになります。

熊谷貞直

話が大きく変わって、今から約六百七十年前、現在の天龍村の、主に竜西（左閑辺）を切り拓いたのは武士の熊谷貞直といわれています。そしてその時の年齢が推定で二十六歳です。

二十六歳で天龍村に移住し、五十六歳で亡くなるまで、天龍村において三十年間、中世村落を形づくることに尽力していきます。

貞直が五十六歳で亡くなるとき、辞世の句として「おもひきや千里の浦を廻り来て此山陰に朽ち果てるとは」（様々なところを転々として、最後にこの山間地で死んでいくものとは、思いもよらぬことである。）と詠んでいます。

京都で生まれた貞直は、中央の政変に巻き込まれ、各地を転々としていきます。そして最後に落ち着いた左閑辺でその生涯を終えます。

そのような経緯を鑑みると貞直の辞世の句は、深みをもって私の心に迫ってくる言葉になっています。

私の生まれ故郷は神奈川県の横須賀市で、どういった縁があったのか、今では天龍村に住み着いています。天龍村に永住することを決めた身としては、やはり貞直の辞世の句が、力強くも物悲しい音調で心にしみわたってきます。

ありが隊

天龍村の地域おこし協力隊のことを「ありが隊」と呼びます。以前のありが隊新聞を読み返してみると、その正式名称は「あっぱれ！天龍村の方にいつも協力していただきありが隊」となっていることに気がつきました。

私は、天龍村の地域おこし協力隊として三年間活動させて頂きましたが、村の方々を協力するよりも、協力して頂くことの方が多かった様に思います。そうした意味でも、私にとっては「協力隊」よりかは「ありが隊」の方が、適切な言葉としてしっくりくるのかもしれません。

他のありが隊員や、ありが隊ＯＢ、ＯＧの方には、大変お世話になりました。恐らく先輩方の諸活動が積み重なって、自分自身の活動ができたのではないかと思います。改めて御礼を申し上げると共に、今後とも様々な地域活動でお世話になります。

天龍村の地域おこし協力隊は終わりになりますが、天龍村には住み続けることになるので、一村民としてこれからも天龍村の方々にはお世話になります。

これからも、地区の活動や消防団、村のお祭りなどの地域活動に積極的に参加していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

最後になりますが、ありが隊として村の方々をはじめ、たくさんの方々にお世話になり三年間活動することができました。ここに深く御礼を申し上げるとともに、協力隊終了後も、地域の活動でしっかりと恩返しをさせて頂くと固い決意をもって、今月号のありが隊新聞の結びと致します。

ありがとうございました。

記　大石　航平

加藤まゆみ

◇「みんなでよもやまの会」手芸会!!

今回は各々、やりたい手芸を持ち込んでの会にさせて頂きましたが：皆さん年齢の壁も超えて楽しく参加して頂いてました。年度が替わっても引き続き開催させて頂きたいと思いますので、ぜひご参加ください。

◇活動報告会終わりました。

今回は例年と違いおきよめの湯にて発表と交流を兼ね備えた会にさせて頂き、今までの協力隊の歴史も年表にし、過去の新聞も閲覧できる形にしました。和やかな会になり楽しい一日でした。

今月で私が入隊して一緒に活動してた３人が卒業：ほんとに悲しい。本当お世話になりました：ありがとうございました。私も残りの活動を頑張ります。

おそうじ道　㉑［　スプリングクリーニングのススメ　］

家の中もリフレッシュしたくなる春の到来です。昨年も書かせて頂きましたが、欧米ではちょうど今頃の時期から大掃除、つまりスプリングクリーニングをするのが一般的なんだそうです。

気温が上昇し、気候のよい季節なので作業がはかどる。この時期に大掃除をするメリットは多く、ぜひ取り入れてみたい習慣です。また年度の変わり目でもあり、新たに取り出すもの、次のシーズンまで保管するものと、入れ替えが多く発生します。よい状態で保管するためには、もちろんお手入れやクリーニングが欠かせないので：このような掃除にチャレンジしてみてはいかがでしょうか？

＊暖房機や加湿器のお手入れ
＊晴れた日に窓を洗う
＊冬の寝具を干してお手入れ
＊カーテンの洗濯
＊油汚れを中心にキッチンの再点検
＊エアコンの掃除
＊靴の整理・玄関の掃除

モチ「の」天龍やんややんや

文　望月ひとみ

三月になり、ウグイスの美声が聴こえる季節になりました。「梅に鶯」ということわざがありますが、天龍村の自然と人も、そんなふうに仲良く、ともに親しめるよい関係でありたいものですね。

●ていざなす栽培

ていざなすの苗木は接ぎ木苗で仕立てて、出荷します。組合員用苗は通常よりも接ぐ節を高くします。接ぎ木というだけでも病気に強い苗にすることができますが、組合ではできるだけ長く収穫したいということもあり、この高接ぎ木という方法で苗を作っています。

接ぎ木苗の上部分を穂木といいますが、これが毎年種取りをして、代々受け継がれているていざなすの苗（右写真）。いまはまだ葉が丸くて愛らしいです。カットするのが切ない気もしますが、よりパワーアップした苗になるのと励ましつつ接いでいます。

●十久保南蛮

去る三月十五日、天龍村十久保南蛮生産者組合が設立されました。皆で盛り上げていきましょう。伝統野菜はその地域の風土や暮らしに合っているからこそ種が継がれてきたもので、残されるべき「食の文化財」であると研究者であった大井美知男先生の書籍にあります（『地域を照らす伝統作物』川辺書林　二〇一一）。地域の文化を伝える伝統野菜が、地元地域でより多くの方に栽培され、おいしく食されること。この姿こそ、天龍村のような中山間地域における豊かな地域像であると考えています。

先日、東京農業大学の農村調査部の学生六名の方が来村され、十久保南蛮栽培のことや栽培に至った背景である村の歴史・ダム建設の歴史について学びを深められました。十久保南蛮の種まき・伊那谷ガレットの調理体験もでき、熱心に話を聞き取る様子や村の課題解決に協力したいという思いを受け、私自身も刺激を受けました。通年で生産・商品開発に関わるとのことで、大変うれしく、ともに学べる事が楽しみです（将来村に住もうと思ってくれる方がいるといいな…！）。